

Tokyo Keizai University Academic Research Center

東京経済大学

学術研究センター年報

二〇〇二年度〈第三号〉

東京経済大学

---

# 東京経済大学学術研究センター年報

---

〈第 3 号〉

## 目 次

国際シンポジウム	
WTO 加盟後の中国と日本	1
国際経済学科開設記念国際シンポジウム	
日本の選択——経済グローバル化とアジアの地域協力	79
学術フォーラム	
無形資産時代の到来—見えざる資産を見る—	277
学術フォーラム	
東京における自動車公害の現状と課題—大気汚染裁判の判決を受けて—	343
大倉喜八郎記念東京経済大学学術芸術振興会	
学術講演会：—科学者が歩んだ半世紀の道—変動と変革の時代を経て— .....江崎 玲 於 奈	391
大倉喜八郎記念東京経済大学学術芸術振興会	
学術講演会：拡大に向かう欧州連合とドイツ経済.....ヘルベルト・ハックス	401
2002 年度 JICK 研修員受入プロジェクト	
東京経済大学によるヴィエトナム研修員の受入プロジェクト(第 2 報) .....柴 田 高	419
2003 年度開催学術シンポジウム・予告	425
2003 年度学術研究センタープロジェクト一覧	427
学術研究センタープロジェクト・研究成果一覧	430
学術研究センター利用ガイド	433
学術研究センター関連規程	443
2002 年度学術研究センター日誌	475

#### 【編集後記】

本学学術研究センターが発足して3年が経過し、本誌も3号目となりました。学術研究センターの役割には、まずは学内の個々の研究および学内外研究者による共同研究や発表の支援、そしてそれらの研究成果を記録にとどめることなどがあります。後者はしばしば国外の研究者が参加し、国際的な研究となります。

本号には、国際シンポジウム2件、学術フォーラム2件、講演会2件、その他2件などが所収されました。分量的には号を延ばす毎に増え、本3号も第2号を超えるものとなりました。そのため2冊に分けることも考えましたが、保管その他の利便のため1冊に収めることにしました。

本誌が本学の今後の研究活動の刺激となり、ますます発展していくことを願って止みません。本誌の完成には、吉井学術研究センター長はじめ委員の方々の理解と協力、および事務方としてこれが本学での最後の仕事となった漆原たつみさんの献身的な尽力があったことを記しておきます。(大崎記)

本号編集担当：大崎正瑠（運営委員）、漆原たつみ（教務課）

東京経済大学学術研究センター年報  
2002年度・第3号

〈非売品〉

---

編 集 学術研究センター運営委員会

編集代表 学術研究センター長 吉井 博明

発 行 東京経済大学学術研究センター

〒185-8502 東京都国分寺市南町 1-7-34

電 話 042-328-7743

F A X 042-328-7772

発行日 2003年6月30日

印刷／製本 株式会社 精興社

---

Tokyo Keizai University Academic Research Center



正誤表

誤		正	
目次		目次	
(15行目)		(15行目)	
2002年度JICK研修員受入プロジェクト		2002年度JICA研修員受入プロジェクト	